

## ハッ場ダム住民訴訟通信-68

2011年4月14日発行

東日本大震災で罹災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

### **福島原発事故と戦争とハッ場ダム。**

#### **動き出したら止められない、この国の宿痾。**

東日本大震災は、地震そのものの破壊力と津波の猛威が重なり、未曾有の被害をもたらしました。何よりも被災された方々と被災地の救済を第一とすべきですが、私たちは自然の猛威を謙虚に受け止め、未曾有の災害の中に「人災」はなかったのか。見極める責任があります。

#### **福島第一原子力発電所の事故は、人災そのものです。**

言うまでもなく、原発の開発・推進には多くの方々が長年に亘って警告を發し、反対運動と訴訟を繰り返してきました。この度の事故は、こうした方々の警告が現実になり、ひとたび事故を起こせば、制御出来ない原発の恐ろしさが明らかになりました。

「想定外の津波だった」で片づけられません。先の戦争も無謀と知りながら突入し、「動き出したら止められない」この国の無責任構造が悲惨な結果をもたらしました。

原発事故も根はまったく同じです。戦後60数年、主権は私たちに移りながら、「おまかせ民主主義」により無責任構造は宿痾となって温存されました。未曾有の人災は一義的には政官業の癒着構造にありますが、私たち国民も、ひとりひとりの胸の奥底を問わねばならないものでしょう。

ハッ場ダムも同じ無責任構造の上に進められています。この度の原発事故を教訓にして「主権者の責任」を広く訴えて行かねばなりません。

#### **“責任政党”と称した無責任政治家による「動き出したら止められない」。**

これまで政権与党は、我々は“責任政党”と、ことあるごとに胸を張ってきました。

責任政党の“責任”とは何なのでしょう。私たちの社会が大きな矛盾を抱えたり、決められた制度や事業がその役目を終え不合理な状況にあれば、正すのが政治の役割です。でも、矛盾や不合理を正そうとすれば、少なからず混乱を招くことは覚悟しなければなりません。責任政党の“責任”とは、こうした混乱を避けることにあったようです。つまり、一度決められたことは改めない。そんなことをすれば混乱する。我々はそんな無責任なことは出来ない。

こうして「動き出したら止められない」宿痾は、生活習慣病のように日常化しました。

#### **市町村議会にも見られる「動き出したら止められない」。**

私たちは、いま国と県が進める「ハッ場ダム等水源開発の検証検討」は、市町村にとって不利益になると思われることから、議会において審議し、意見書を知事宛てに提出するよう31の市町村に請願しました。

3月31日現在11市町村の結果がでました。その内6市町村議会は請願を退け不採択としました。理由は「当該事項は国と県が進めているものだから…」というものです。これほどの無責任が許されるのでしょうか。国と県と市町村の利害が一致するならともかく、これに先立つ市町村首長の「水道用水供給事業料金見直し」要望書は、明らかに県と市町村の利害が対立しています。そうした事実を知りながら「住民福祉」を顧みず、「上の決めることは従う」という態度は、責任政党とそれに寄り添う議員による“責任ある政治”ということなのでしょう。

市町村議会も「動き出したら止められない」宿痾におかされています。

(裏面もご覧ください)

## 無用なら止める。ここに民主主義あり、筑西市と議会。

筑西市議会は、一昨年の「ハッ場ダム中止問題について」の請願に引き続き、今回も採択しました。賛成は議会定数 24 人中 18 人。圧倒的多数によるものです。賛成議員の中には、いわゆる“責任政党”の議員もおられることと思います。当該議員には責任ある政治姿勢に衷心より敬意を表します。自治体には自治体の判断があります。住民の福祉を第一に考えれば、「動き出したものも止めなければなりません」。筑西市民と議会に重ねて敬意を表します。

## ハッ場ダム流域の保水力は∞無限大。で、あるならばハッ場ダムは要らない。

昨年秋、利根川の基本高水 22000 トン/秒の基礎になる「貯留関数法」の係数が恣意的に設定されていたことが発覚、これを受けて、日本学術会議「利根川水系基本高水検討委員会」が発足しました。4月1日、第5回会議において、国土交通省は衝撃的な係数を報告しました。これまで八斗島上流は、全域にわたって「一次流出率 50%」「飽和雨量 48mm」としてきたものを、以下のように改めました。

	新しい		これまでの	
	一次流出率	飽和雨量	一次流出率	飽和雨量
奥利根流域	0.4	150	0.5	48
吾妻川流域	0.4	∞	0.5	48
烏川流域	0.5	200	0.5	48
神流川流域	0.5	130	0.5	48

ご覧のようにこれまで禿山並みの数値であったものが、すべての流域で成熟した森林の保水力に改まりました。ことにハッ場ダム予定地のある吾妻川流域は、浅間山・赤城山・榛名山などの火山から出た「第四紀火山岩帯」という新しい地層からなるため、雨水の浸透率が高く「飽和雨量∞無限大」としています。これが事実ならハッ場ダムはまったく要りません。

ハッ場ダムの治水機能は、ダム上流域に 3 日間雨量 354mm の大雨が降ると、毎秒 3900 トンの洪水がダムに流れ込み、内 2400 トンをカット。下流へ 1500 トン流すというものです。この条件は表右の、一次流出率 0.5 と飽和雨量 48mm によるものです。この場合 354mm の降雨のうち川に流れ込むのは 306mm になります。新基準では飽和雨量は無限大ですから 354mm の 40% = 141.1mm しか流れ込みません。306mm で 3900 トンとすれば、単純計算で 141.1mm は 1798 トンになります。

2001 年 9 月、340mm 以上の大雨が降りました。その時、ハッ場ダム予定地の下流にある岩島観測点での流量は 1247 トンに留まりました。ダム予定地と岩島の間には狭隘で九十九に折れる吾妻溪谷があります。その自然のダム効果を考えれば、1798 トンの洪水は、岩島地点 1247 トンに減衰することは十分に有りうることです。

## ■第 4 回ハッ場ダム裁判高裁進行協議

日時：5 月 19 日(木)午後 3 時 30 分 場所：東京高裁第 10 民事部 集合：1 階ロビー 3 時 15 分  
原告以外の方も参加できます。ふるってご参加ください。

## ■鳴津暉之さん講演「どうなるハッ場ダム」・・・(利根川の水と自然を守る取手連絡会総会)

日時：5 月 14 日(土)午前 10 時 場所：戸頭団地 7 街区集会所 問合せ：0297-74-7263 近藤

ハッ場ダムをストップさせる茨城の会 代表：近藤欣子 濱田篤信 柏村忠志  
事務局：神原禮二 〒302-0023 取手市白山 1-8-5 携帯：090-4527-7768